

2019.10.28
福祉新聞

160人が参加した実践発表会



にじの会が特別賞

都地域公益
活動推進協

9法人が実践発表

都内の社会福祉法人で組織する東京都地域公益活動推進協議会（会長＝品川卓正・村山苑理理事長）の公益的な取り組み実践発表会が2日に開かれ、約160人が参加した。

同協議会は2016年9月に東京都社会福祉協議会が設立し、現在295法人、1030施設が参加。都全域、市区町村域、各法人の3層で、地域公益活動や情報発信などに取り組んでいる。

発表会では、若年性認知症で仕事を失った人の就労支援をしているマサアスや、高齢者の地域交流のために「安心シニア塾」を開

いている多摩同胞会、児童虐待防止のための「0歳からの親子コンサート」を開いている至誠学舎立川など9法人が参加した。

参加者の投票で選ばれた最優秀事例の特別賞には、三鷹市で障害者事業を運営するにじの会の「高齢者買い物ツアー支援事業・買い物ツアーかわせみ」が選ばれた。

買い物ツアーは、同市大沢地区の住民互助組織「地域ケアネットワーク・大沢」から「商店街が少なく、高齢者が買い物難民状態になっている」との相談を受け、ケアネットと共同で17年4月から

実施。週3回、にじの会の職員が運転する送迎ワゴン車が6人の参加者を回り、希望店舗5コースから選択心での買い物後、にじの会運営のレストランで昼食を取る形で行っている。

送迎車には、にじの会の事務局員、ケアネットのサポーター各1人も同乗し、買い物の手伝い、購入品の車への積み込み、玄関先までの荷物運びなど手厚い援助もあり、参加者から大好評。地域住民と一緒に地域の福祉課題を解決していることが評価されての受賞となった。

（井口拓哉）